

説

四年
 筆順 言説説
 オン セツ・ゼイ
 フン とリク

成り立ち



「口を開く」という意味を表した「谷」と、「人」の形を表した「儿」と、「ことば」の意味の「言」とを組み合わせて作った字です。

「人が口を開いてことばを出す」という意味を表した字です。「物事をよくわかるように話す」という意味に使われます。

また、「説明した中味」の意味にも使われます。【例】学説、定説、仮説、異説、珍説。

「説」は「エイ」と「エツ」の音がある。「鋭」や「税」は前者で、「悦」や「閑」は後者である。「説」も論語の「学而時習之、亦不説乎」の場合はエツの音である。セツは転化したもの。

使い方

▽恐竜が絶滅した謎を説き明かすという新説が発表されました。

▽わたしは本を読む時、解説という部分を必ず読むことにしています。それは、この部分には作者のことや、その本が書かれた理由などが説明してあって、とてもおもしろいからです。

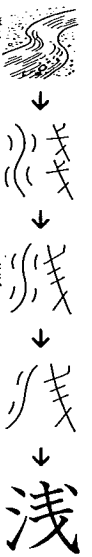
熟語例

- ▽説明（物事をよくわかるように話すこと。）
- ▽解説（物事を解きほぐして、よくわかるように説明すること。）
- ▽説話（神話・伝説・民話など、むかしから語り伝えられた話）
- ▽学説（学問上の説明。「学説によると、それは事実ではない」ということである）などと、つかいます。）
- ▽仮説（あることを説明しようとして仮に立てた説）
- ▽定説（正しいと広く認められている説）
- ▽異説（定説とは異なった説）
- ▽珍説（おかしな説）
- ▽新説（新しい説）

浅

四年
 筆順 浅浅浅
 オン セン
 フン あさしい

成り立ち



「戔（戦4562）を交えて戦う」という意味から、「戦ったために力が弱くなる」ことを表した「戔」と、川の流れを表した「氵」とを組み合わせて作った字です。

「川の流れが弱くなり、「水があさしい」ことを表した字です。【例】浅瀬、浅海。

今は、水にかんけいなく、「あさしい」という意味に使われず。【例】浅学、浅慮、浅見、浅才。

「色がうすい」ことにも使われます。【例】浅緑、浅紅色。

また、「ていどが軽い」という意味にも使われます。【例】浅手、浅薄。

使い方

▽わたしは海が好きです。泳いだり、底までもぐったりして遊びます。また、浅瀬で、おとうとと水かけっかなどをします。

熟語例

- ▽浅瀬（水の浅い所）
- ▽浅海（浅い海）
- ▽浅学（浅い学問。自分の学問をへりくだって言う時にもつかいます。「浅学非才の身では、とてもわかりかねます」などというふうです。）
- ▽浅慮（浅はかな考え。「そんなことを言うのは浅慮の至り」というものだ）などというふうにつかいます。）
- ▽浅才（浅がえ。おもに自分のことについて、けんそんしてつかいます。）
- ▽浅手（軽い傷。「傷は浅手だから、だいじょうぶ」などというふうにつかいます。）
- ▽浅薄（態度や考えが軽々しく、浅はかなこと。「浅薄な人間で困る」などというふうにつかいます。）